

先進技術実践委員会情報共有セミナー開催される



9月25日 JJK 会館で、「デジタルトランスフォーメーション (DX) を可能にする技術とスキル」と題して、先進技術実践委員会 (委員長: 岩本敏男 (株) NTT データ相談役) 主催の情報共有セミナーが開催された。参加者は 106 名。

まず、岩本委員長より「デジタルトランスフォーメーション (DX) を実現するための課題」として、データの重要性と活用に触れ、データをインフォメーションからインテリジェンスとして取り出す過程で先端的なテクノロジーが役に立つので、これを利用して課題解決に向かうべきとのオープニングスピーチが行われた。

続いて経済産業省・菊川人吾情報産業課長から DX に向けての政策紹介が行われた。現状では、既存システムの維持・保守に人手と資金がかかっており、DX への対応が遅れている、デジタルにおけるビジョンと戦略が欠けている、ユーザーにおける技術者が不足している、などの課題がある。この「2025 年の崖」を乗り越え、DX に対応できるシステムに刷新していく必要があり、そのための施策を検討中とのこと。

次に、パナソニック (株) ソフトウェア戦略担当・梶本一夫理事による基調講演が行われた。AI ロボティクス、店舗・接客ソリューション、自動運転・コンピューター、次世代物流等の実証実験事例を紹介し、UI/UX、AI、センシングを深化させ高い顧客価値を提供していく戦略が紹介された。また家電分野でも、先進

技術提供の前に住環境の改善提案が重要であることに触れつつ、家事からの開放、快適性の追求を目指し、WEB 技術を使い、他社製品も巻き込んだ、つながる仕組み、すなわちエコシステムを構築していく構想が紹介された。

休憩を挟んで、及川卓也技術コンサルタントによる技術とスキルについての講演が行われた。日本全体の IT リテラシーの低さに問題があると指摘、米国のプログラマーのサラリーが非常に高額になっていることを紹介する一方で、日本ではいまだコンサル・SE・プログラマーという形で上流重視の報酬体系となっていることも問題提起した。DX の時代には（部分的ではあっても）アジャイル開発を取り入れることが必須であり、このような場合、一人のエンジニアが上流から下流まで、エンドユーザーと対になって開発していく技術力が求められる。米国ではこのようなエンジニアが高給を得ている。エンジニアとしてスキルアップするためには、学習－知識－経験をループさせていくことが重要。まず基本となる言語を習得した後、近い分野の言語からさらに広げていくのがやりやすい。また成長していくためには、T 型の深化が必要であり、軸となる技術をもとにその幅を広げる一方、まったく違った方向の 3 軸目を選択することによって、スキルが立体的になり、自分自身をレアカード化できると紹介した。すべての破壊的イノベーションは、登場した当時はおもちゃレベルの技術のものと置き換えられていったことを紹介し、最後に、結局は気持ちが一番であり、おもちゃを見つけた子供のような気持ちで新たな軸に取り組んでいくことが大切だと締めくくった。

最後のセッションでは、情報技術マップ部会・山口陽平部会長（(株)みずほ情報総研・チーフコンサルタント）、要求工学実践部会・青山幹雄部会長（南山大学理工学部教授）、先進技術部会・端山毅部会長（(株)NTT データ・シニアスペシャリスト）よりそれぞれ部会の近況が報告された（詳細は JISA 会報、報告書等参照）。

今後、要求工学実践部会は、要求工学における DX への取り組みを中心テーマとしたソフトウェア工学実践シンポジウム（10 月 5 日開催）を予定しているほか、情報技術マップ部会では、今年 12 月から年明けにかけて情報技術スキル保有状況についての定点観測調査を実施予定、また先進技術部会は今年度の成果を提言としてまとめる方向で検討している。（山本）